

# 一心太助の天秤棒 ～前の籠には責任を、後の籠には信頼を 肩に担いで売り歩く～

越谷市議員 白川 ひでつぐ、  
シリーズ/NO 134号



Web サイト



Youtube



Twitter



Spotify

## 駅頭は小さなドラマの連続だ！

初当選以来6期21年間毎日毎朝続ける東武鉄道の市内6駅での朝の駅立ちは、通算4200日を超えました。私の日々のツイッターのつぶやきから、転載したものを含め、駅前の様々な市民との出会いや何気ない駅前の風景、市民の日常を通した暮らしへの息遣いをエピソード集としてシリーズでお届けしています。

YouTubeの白川ひでつぐ公式チャンネルの登録者は264名を超えました。引き続き配信を継続していますので、これまでのご協力に感謝し、更にご登録をお願いします。

チャンネル登録



## パーティ券を廃止する意見書採択を求める市民請願の審査の結果は？

今朝の駅立ちは、越谷駅西口で通常通り午前7時から午前8時30分過ぎまで市政レポートを配布した。

今回もチーム白川の会員である吉田理子さんが行動を共にして頂いた。

終了後直ちに市役所に向かった。午前10時から3月越谷市議会の総務常任委員会が開催されるため傍聴のためだ。

会場となった市議会棟8階の第一委員会室では、冒頭審査・採決される市民請願「金権腐敗政治を一掃するよう国に求める意見書」を越谷市議会で採択して欲しい、と請願された2人の市民の方とともに傍聴席には十数名の市民が着席されていた。

この請願は、この間自民党の安部派や二階派

等の政治資金パーティ券を巡る政治資金規制法違反を始め裏金問題等、不透明な資金の流れが大きな社会問題となっている事を取り上げていた。

それは、①裏金作りに関与した政治家全員の証人尋問を行う事。②政治資金パーティ券購入を含め企業・団体献金を全面的に禁止する事、を要旨としていた。

請願者の二人の市民と紹介議員から請願趣旨の説明に続いて、総務委員からの質疑に答弁が行われた。

そして採決の結果、自民党、公明党の議員は反対したものの賛成多数で可決した。

反対した自民党の議員からは、意見表明で、「今回の事態になったことにお詫びしたい。そのため自民党本部では政治刷新会議を立ち上げ、再発防止に全力を上げている」と言及された。公明党の議員は、質疑も意見表明も反対討論もなかった。

私は、証人尋問には賛成なのだが、企業・団体献金の禁止には全面時には賛成しがたい。

勿論、政治資金の支出に関しては1円から公開が必要と思うが、収入の中で企業も各種団体も現状の仕組みや将来の社会の在り方を政党や政治家に献金を通して求めることは異常ではないと判断している。

現在問題となっているのが自民党であるため、想像しにくい野党が政権交代した場合には適用が妥当であろう。

採決とともに、最終日の3月18日の本会議場での「意見書」の議案が作成（請願した市民と賛成した議員を中心に）され、再び提案採決される事になる。（3月7日・木曜日）

## 在校生代表の送る言葉に感心。卒業式で

今朝は、北陽中学校の卒業式が午前8時45分から開催されたため、朝の駅立ちは中止した。

会場となった体育館には卒業生のための椅子が整然と並ぶ中、教職員や来賓そして保護者が参列するなかクラスごとに卒業する生徒が次々と入場し着席して開式となった。

3月とはいえ気温は低く、体育館はまだ空調設備の工事が進んでいないため、冷え冷えとしていた。まず、校長先生の挨拶に続き卒業生が一人一人呼名され、自席から歩いて進み正面演壇で校長先生から卒業叢書を受け取り、自席に戻っていくのだが、来賓席を通過するたびに

（裏へ）

来賓席に一礼をして演壇に向かっていく流れが暫く続く。その後の式次もあり卒業生が退場するまで実に2時間15分位の時間を要した。

この間、喜の祝典なのだが、一切会場には笑いも微笑みもなく、冷厳な空気の中で進行していく様は、規律正しいとも言えるが、まるで軍隊の行動規律にも感じられた。この日のために生徒がどれほどの準備や練習を重ねたことかと頭をよぎる。この様な練習風景がYouTubeで配信されており、他の中学校ではあるが体罰とも思えるような先生による生徒への叱責が公然となされていた。

ただ、微笑ましく気持ちが救われたのは、在校生代表(2年生女子)からの送る言葉だった。

式辞は持ってはいたが、殆どそれをみることなく、そらであんじながら卒業生と学んだ2年間の思い出や卒業後の人生への期待を気持ちを込めて披露された。

式典終了後、控室で校長先生から、この生徒が生徒会会長であると聞かされて、納得したり感心したり、何時の時代にも利発な女性がいるのだと、胸を刻んだ一日だった。

(3月15日・金曜日)

### 3, 1 1 東日本大震災の慰霊に対する黙とうを越谷市議会で公式な行事に

今日は、3月越谷市議会最終日となり、午前9時30分から議会運営委員会が開催された。

議題は、当日提案される議案「女性差別撤廃条約選択制議定書の速やかな推進を求める意見書」の提案と質疑、討論、採決の手順の確認のため全会一致で了解された。

その他の議事の中で、私から毎年3月11日午後2時45分に執り行われて来た、越谷市議会での黙とうの変更を提案した。

3, 1 1 東日本大震災から13年目を迎えているが、毎年この日を記念し慰霊のために市議会では黙とうをささげて来た。

今回も私が委員長を務める民生常任委員会と子ども・教育常任委員会で審議時間を中断して議員及び執行部職員全員で黙とうを実施した。しかし、この黙とうの時間帯は一旦委員会を休憩に落とし、それから1分間の黙とうを捧げた。

このため、この行動は正式な議会のイベントとしては認められずに任意のものとして位置づけられており、従ってライブ中継も中断され、画像

はただ今休憩中とのプロットが画面に流されるだけで、一体何で休憩かも市民は知る由もない状況が続いていた。

議会事務局の説明によると、これまで“慣例”として取り組んで来ている、との事だった。

そこで、市議会は35万人越谷市民の代表であり、その代表機関が任意のイベントではなく、正式な行事としての黙とうとなるよう来年度以降は執り行われるようお願いした。

つまり、会議中であっても(本会議や委員会中)公式な行事として開催して欲しいとの要望。

今後、議会運営委員会での正規の議題として協議して頂くことで了解となった。

(3月18日・月曜日)



### 義手、義足の開発、製造販売の会社を調査して来た

大阪府大東市にある、義手や義足をはじめ車いすや歩行器具、障がい者用のスポーツ製品の研究、開発、販売を一手に行っている

「川村義肢株式会社」を3月24日に調査して来た。ショールームを配置した受けつけで、説明員の女性に一体一で対応して頂いた。

まず会議室で(優に50人位は着席出来る部屋)会社概要の説明をパワポ使用でして頂いた後、1階2階までの広いスペースをとった製造過程を各コーナーごとに案内して頂いた。

この会社は、様々な身体支援の用具を開発し大きな工場で製造しており、年間3000人もの見学者が訪れるが、地方議員では私は最初の見学者との説明をして頂いた。

高齢者や障がい者をはじめ病院機器やスポーツ選手用の義手や義足も開発研究している、器具のメンテナンスも日常的に引きうけているので、大学や病院の医師や技師等とも連携している、との事。

どの製造過程も流れるようなライン上で作業が進んでおり、イメージしたものとは全く違っており、必要とされる日常活動を支える事を家業としている人間の誇りを感じた一日だった。

(3月23日・土曜日)